

Costume and Textile

No. 20

服飾文化学会会報

2010年9月

会長就任にあたって

徳井淑子

去る5月22日、日本女子大学にて開催されました第11回服飾文化学会総会において会長就任をご承認いただきました。理事会にて今期の会長に推薦をいただきました折たいへん



困惑いたしました。これまで石山彰先生、石井とめ子先生、伊藤紀之先生の歴代の会長のもと、みなさまのご尽力によって発展してきた本学会が、今後も継続的に展開するよう努力する所存です。

グローバルな社会環境の変化のなかで、ひとこづームともなった服飾文化研究が、人的にも物質的にも滞りがちの昨今ですが、本学会では作品集の刊行も実現し、投稿論文や口頭発表も質量とも年々豊かになっていくことを実感しています。新たな服飾文化の構築に向けて、学会が刺激的な場となるよう願っていますが、会員のみなさまには、ご研究のペースに合わせて学会活動をむしろ利用なさってくださいれば幸いです。

学会事務局は、これまで通り共立女子大学被服意匠研究室にお世話になります。事務局には多大の負担をおかけしており、また理事の方々にも負担をお願いしておりますが、合理的な事務処理の実現に、会員みなさまのご協力が欠かせません。なにとぞよろしくお願い申し上げます。

役員改選について

2009年12月より選挙管理委員会による役員改選の準備が始まり、本年1月25日消印有効で受理した投票用紙を開票。2010、11年度の理事28名と監事2名が選出され、役員の担当は下表のように決まりました。

2010・11年度 服飾文化学会役員

担当	氏名	所属
総務	会長 徳井 淑子	お茶の水女子大学
	副会長 長崎 巖	共立女子大学
財務	長田 美智子	鎌倉女子大学
	大網 美代子	大妻女子大学
庶務	佐久間 恭子	女子美術大学
	池田 節子	相模女子大学
	大網 美代子	大妻女子大学
	飯塚 弘子	埼玉女子短期大学
	清水 久美子	同志社女子大学
	高野倉 睦子	神戸女子大学
総会・大会	高部 啓子	実践女子大学
	池田 節子	相模女子大学
	玉田 真紀	尚絅学院大学
	馬場 まみ	華頂短期大学
	山名 邦和	京都女子大学
夏期セミナー	柳原 美紗子	日本縮染振興会
	田中 美智	川村学園女子大学
	泉山 幸代	北翔大学短期大学部
論文発表会	塚田 耕一	杉野服飾大学
	高部 啓子	実践女子大学
	荻原 延元	川村学園女子大学
研究例会	能澤 慧子	東京家政大学
	塚田 耕一	杉野服飾大学
	古賀 令子	文化女子大学
学会誌編集(論文編)	齊藤 昌子	共立女子大学
	長崎 巖	共立女子大学
	小笠原 小枝	日本女子大学
	佐藤 泰子	文化女子大学
	水上 嘉代子	遠山記念館
学会誌編集(作品編)	小笠原 小枝	日本女子大学
	田中 美智	川村学園女子大学
	多田 洋子	和洋女子大学
	玉田 真紀	尚絅学院大学
会報編集	岡田 宣世	女子美術大学
	佐久間 恭子	女子美術大学
	深津 裕子	女子美術大学美術館
	常見 美紀子	京都女子大学
監事	伊藤 紀之	共立女子大学
	蔵方 宏昌	安方クリニック

2010年度第11回総会・大会の報告



口頭発表会場

服飾文化学会第11回総会・大会は2010年5月22日(土)・23日(日)に、日本女子大学目白キャンパスで開催された。会場に当てられた新泉山館は、キャンパスのなかでも最も新しい建物で、決して広くはないが、1階ホールは小規模の学会に適した設備が整っている。あいにく一時驟雨に見舞われたが、都心の立地条件に恵まれたこともあり、当日の申込者を含めて108名の参加者があった。2日間の概要は以下の通りである。

1) 口頭発表

佐々井啓大会実行委員長による開会挨拶の後に、口頭発表が開始された。発表件数は13件で22日午後に7件、23日午前に5件が行われた。内容は服飾史・染織史の歴史的研究に関わるものをはじめ、衣服の素材や構成、ファッションと社会学、あるいは文化人類学的視点からのアプローチなど、いずれもこの学会にふさわしい幅広いテーマが含まれていた。特に近年の傾向としては博士課程後期の学生や研究所所属の研究員などが積極的に参加され、学会の空気がより活性化したように思う。二日目の口頭発表の後は、佐々井啓大会実行委員長と長崎巖副委員長の挨拶で締めくくられた。

2) 作品・ポスター展示発表

今回ポスター発表はなく、作品9点が新泉山館の2階会議室に展示された。23日午前の口頭発表について行われた作者のショートスピーチには、それぞれに活発な質問が寄せられ会場が賑わいだ。作品の形態はさまざまであるが、学生にモノ作りの楽しさを伝え、それに参加させようとする工夫や試みは共通にみられ、この学会の作品展らしい特色が出ていたように思う。



作品・ポスター展示発表



口頭発表

3) 特別講演

大会初日の口頭発表の後、講演会が催された。
講師：小山弓弦葉氏（東京国立博物館主任研究員）
演題：「辻が花」を考える

—「ことば」と技法をめぐる五〇〇年の歴史—
日本の染織史・服飾史を志す者ならおそらく誰もが魅了される「辻が花」。しかし、その実態は？近世初頭に登場した縫締絞りの代名詞となってしまったことの真偽は？染織史の王道とも言えるテーマに正面から切り込み、豊富な実物資料と絵画・文献資料を綿密に積み重ねて、改めて問題点を問いただされる姿勢は、若い世代の学会員にも大きな刺激になったと思う。講演後に論議を尽くす十分な時間が取れなかったのは、残念であったが、さらに詳細に興味をお持ちの方は、平成20年度東京国立博物館紀要44号掲載論文を参考にされたい。



『三十二番職人歌合』（天理本）桂女の図



口頭発表への質問

4) 総会

総会の司会は来年度の大会・総会の実行委員に当たられる高部啓子氏によって進められ、伊藤一郎氏を議長に選出して議事に入った。
報告事項として、平成21年度の事業報告、会計報告、監査報告あり、審議事項として22・23年度役員選出結果の報告、今年度の事業計画案、会計計画案が提出され、承認された。

5) 懇親会

キャンパス内の桜楓会館3階の広間を会場として、71名の参加者で開催された。司会是小笠原が勤め、徳井淑子会長、伊藤紀之前会長、加えてこの学会の育ての親である石井とめ子名誉会員にご挨拶をいただき、歓談と旺盛な食欲のもとに終始なごやかに進められ、長崎巖副会長の挨拶で閉会した。

6) 見学会

今回の大会では都心であることの立地条件から、敢えて一か所に見学に行くのではなく、各自の希望によって行けるように大会会期中に開催されている下記のような展覧会が紹介された。

☆細川家の至宝一珠玉の永世文庫コレクション 東京国立博物館／☆日蘭友好の400年 たばこと塩の博物館／☆ヨーロッパモード—18世紀～現代まで— 文化服装博物館／☆国宝燕子花図屏風 根津美術館 （総会・大会担当 小笠原小枝）

《2010年度 第11回総会・大会プログラム》

5月22日(土)

13:30 開会の挨拶 学会長 徳井 淑子

13:35-15:35 【研究発表】

◆座長 高部 啓子 (実践女子大学)

A-1 ブラウスの襟のイメージと素材との適合性について

○谷 祥子 (日本女子大学)

長田美智子 (鎌倉女子大学)

A-2 アパレル設計用の人体データ集2004-06 (成人女性用)
と過去の計測結果との比較—JIS 9 Rサイズについて—

長田美智子 (鎌倉女子大学)

◆座長 小笠原小枝 (日本女子大学)

A-3 離人形衣裳に使用された金銀糸・引き箔の現状と劣化
機構に関する研究

安達 江梨 (東北芸術工科大学大学院)

A-4 山辺里織の研究—その実態と歴史的意味の究明—

赤羽 光 (共立女子短期大学)

◆座長 徳井 淑子 (お茶の水女子大学)

A-5 18世紀フランスにおけるマリ・サレの舞台衣裳改革(2)
林 精子 (青山学院大学)

A-6 19世紀イギリスの服飾文化とそのデータベース化に関
する研究

菅野ももこ (東京家政大学)

◆座長 能澤 慧子 (東京家政大学)

A-7 流行という媒体 (メディア)—ブルーストにおけファッ
ション—

芳野 まい (早稲田大学)

A-8 ファッションを語る社会学的系譜

小形 道正 (東京大学大学院)

15:50-17:10 【特別講演】

演題 「辻が花」を考える

—「ことば」と技法をめぐる五〇〇年の歴史—

小山弓弦葉 氏 (東京国立博物館主任研究員)

17:20-17:50 【総 会】

18:00-19:30 【懇親会】 会場: 桜楓館 3 階

5月23日(日)

9:30-10:45 【口頭発表】

◆座長 長崎 巖 (共立女子大学)

B-1 現代における伝統的装束について—斎服を中心に—
榎崎久美子 (広島女学院大学)

◆座長 佐藤 泰子 (文化女子大学)

B-2 江戸時代後期における長崎の毛氈製造技術導入の目的
—「止戈樞要」を通して—

砂崎 素子 (長崎大学大学院)

B-3 松代藩真田家における婚礼用衣裳の実態

佐々木佳美 (東京国立博物館)

◆座長 長崎 巖 (共立女子大学)

B-4 鈴木春信の浮世絵にみる服飾描写—初摺と後摺の比較
を中心に—

福田 博美 (文化女子大学)

◆座長 佐々井 啓 (日本女子大学)

B-5 近代が生み出す「マヤ」イメージ

—グアテマラ・マヤ先住民の衣とその文化的意味—

本谷 裕子 (慶応義塾大学)

11:15-12:18 【作品展示発表】

◆座長 佐久間恭子 (女子美術大学)

C-1 織物製作の柄の検討 —糸糸使用の試み—

池田 節子 (相模女子大学短期大学部)

C-2 「モウ」手法を用いたテキスタイルの創作

松本 幸子 (東京家政学院大学)

◆座長 大網美代子 (大妻女子大学)

C-3 コンピュータージャカード手織機による緻密な柄織 III
佐久間恭子 (女子美術大学)

C-4 夏物帽体製帽子の標本制作

水谷みつ江 (文化女子大学)

◆座長 池田 節子 (相模女子大学)

C-5 兜からのヒントによる帽子(4)「接ぎ」を考える

○松本 由伎子、松本 力

(元跡見学園女子大学短期大学部・テオの帽子アトリエ)

C-6 パーツの再構築—装飾の可能性—

大網美代子 (大妻女子大学)

◆座長 田中 美智 (川村学園女子大学)

C-7 スラッシュキルト 2 題

○角田 千枝、田中 百子

(相模女子大学短期大学部)

C-8 伝統的農作業衣からのデザイン展開

○森下あおい (滋賀県立大学)

中川 涼子 (クリエーションA・R)

C-9 “Movement” 動きを楽しむパンツスタイル

小田巻淑子 (東京田中短期大学)

2010年度 事業計画

◇総会・大会

日時: 2010年 5 月22日 (土)、23日 (日)

会場: 日本女子大学

◇夏期セミナー

期間: 2010年 8 月 3 日 (火) ~ 5 日 (木)

会場: 塩沢織物会館 (越後上布保存協会)

◇論文発表会

日時: 2011年 2 ~ 3 月に開催予定

会場: お茶の水女子大学

◇研究例会 年 2 回 開催予定

◇服飾文化学会会報発行

2010年 9 月30日、2011年 3 月20日発行予定

◇服飾文化学会誌〈論文編〉発行

投稿申込締切: 2010年 7 月31日

原稿締切: 2010年 8 月31日

発行予定: 2011年 1 月31日

◇服飾文化学会誌〈作品編〉発行

投稿申込締切: 2010年10月 1 日

原稿締切: 2010年11月 1 日

発行予定: 2011年 1 月31日

ロンドン便り

常見美紀子

皆様、如何おすごしでしょうか。4月から、在外研究員としてロンドンに滞在しています。私が所属している研究機関は、ロイヤル・カレッジ・オブ・アート（RCA）で、学生は約900名ほどのアート・デザインの大学院大学です。ファッション・デザイン・コースが6月に開催するファッションショーは、毎年ヴォーグに掲載されるほど注目されています。7月2日には修了式が、隣接したロイヤル・アルバート・ホールで盛大に行われました。その時に着る服が、夏にもかかわらず、白いウサギの毛皮（おそらく貂の毛皮の代用として使用）付きマントです（写真）。

RCAは、1837年に「Government School of Design」の名で創立されました。イギリスは産業革命を世界に先駆けて成し遂げたにもかかわらず、デザインの質がフランスに劣っているのを危惧する知識人たちの要望で、1830年代に全国にデザイン学校が設立されます。実は、RCAはその中のひとつだったわけです。その後、ヘンリー・コールらが中心となって、ハイドパークで開催した「ロンドン万国博覧会」（1851年）は近代デザイン史にとって重要なことでした。世界最初のこの博覧会は成功裡に終わり、その展示物の多くはケンジントン・ミュージアム（現ヴィクトリア&アルバート美術館）に収められました。こうした経緯から、V&A美術館は、設立当初から「デザイン教育」のためという明確な目的を掲げています。

4階の西側にある「British Galleries」には、19世紀末にV&A美術館の展示物などから発想を得た当時のデザイナーのエスキースが展示されています。今も美術館のあちこちで、スケッチブック片手に、折りたたみ椅子に座って1日中デッサンをしている人達を見かけます。美術館からRCAまでは数分の距離にあり、学芸員と教員は相互に交流し、共同で講義や研究をしています。

この美術館2階には「ナショナル・アート・ライブラリー」があります。大英図書館とは比較にならないほど小規模ですが、れっきとした国立の



ライブラリーです。司書の方々の閲覧者に対するフレンドリーな対応の中に、人間中心主義といわれるイギリス精神を感じることができます。私は、このライブラリーに四つの公園を通り抜けて、徒歩で通っています（片道約50分）。まずフラットからリスやペリカンのいるセント・ジェームズ・パーク（日比谷公園の2倍）を抜け、観光客で混み合うバッキンガム宮殿横のグリーン・パークを西に向かって歩きます。そして1815年ワテルローの戦いでナポレオンを破った英雄ウェリントン公を記念して造られたウェリントン・アーチから、サーペンタイン湖（というより池？）を有するハイドパークへ。この公園は昔、王の狩猟場であった所を庶民に解放したそうで、日比谷公園の約9倍の広さで、ホース・ロードが宮殿まで続いています。その真ん中にある並木の下を、サッカーに興じるキッズ、孫と一緒に読書するお祖母ちゃん、乗馬を楽しむ人々を横目に、次はケンジントン・ガーデンを目指します。ケンジントン・ガーデンには、華麗なアルバート・メモリアルがありますが、私の目的は「秘密の花園」。ここにリス、小鳥、鳩が寄ってくる心休まるベンチがあり、まずはここで休憩。その後、一気にライブラリーに向かいます。ロンドンのこうした文化環境、自然環境の中で、研究に専念できることを感謝しつつ、筆をおきます。

来年の春に、大会でお目にかかれるのを楽しみにしております。

2010年度11回夏期セミナーの報告



塩沢織物会館前

今年度のセミナーは、平成22年8月3日（火）～5日（木）の2泊3日の日程で、新潟県の南魚沼市及び村上市にて実施された。南魚沼市は、歴史上、高い評価を得てきた塩沢地方の織物の中心地で、1200年の歴史を持つ麻織物、越後上布の伝統の技に焦点を当てて見学し、江戸の面影が残る村上市では、地方色豊かな歴史や文化に触れながらの講演・見学といった内容で研修を行った。



越後上布講演 小河先生と武田氏

8月3日（火）

「塩沢織物会館」に集合し、午後2時から、越後上布や製作工程を特別展示した同館会議室で、塩沢織物工業協同組合事務長の武田進氏の司会進行の下、越後上布小千谷縮布技術保存協会会長の小河正義氏による講演とビデオ上映を視聴した。

新潟県魚沼地方、特に塩沢・小千谷地区は古来より上質な麻織物を原料から産し、江戸時代には上布と称して幕府へも上納され、帷子として着用された。その後は、藩主の国替え等により原料は

会津地方（現在は福島県昭和村）に産する良質なものを使用し、平織り（越後上布）・縮（小千谷縮）が作られている。この技術は、この地方の雪が適度の湿気を与え、また雪上の晒しが漂白に役立つ等、雪国の自然環境と風土が一体となって育まれてきたもので、この地方の文化の特質を有するとともに、原料から工程全般に昔ながらの技術を純粹に現在まで伝えている貴重な文化財となっている。越後上布・小千谷縮は、国の重要無形文化財に指定され、2009年にはユネスコの無形文化遺産に、日本の染織技術としては第一号で登録されたことなどを解説していただいた。

その後、技術保持者による工程の実演があり、内容は、1. 苧績み（原料の苧麻を苧引き後の青苧を爪で裂き糸にする作業）2. 糊つけ（苧績みされた糸に糊をつける作業）3. 伸べ（製作に必要な糸の長さを決める作業）4. 緋作り（決められた設計書に基づき、くびりにより柄になる糸<かすり糸>を作成する作業）5. 織り（いざり機による製織作業）。参加者実習も行われ、慣れない手作業に戸惑いながらも、熱心に取り組む姿がそこかしこに見られた。越後上布という伝統の技への理解をますます深くした、貴重な体験だった。



緋つくり体験

夜の懇親会は、「浦佐ホテルオカベ」の宴会場で開催され、地元の新鮮な食材を使った料理を堪能しながら歓談した。

8月4日（水）

朝食後、バスで仙石地区にある十二神社宮司の細矢祥子様の邸宅を訪問し、重要有形民俗文化財の奉納越後上布織を特別に観覧させていただいた。細矢様の解説によると、これらの上布は、機織り

技術の向上を祈願して、織り出した布を幟にして神社に奉納したもので、長さ 8 cm から 180.05 cm のものが 24 点、そのうち奉納年の記入があるもの 16 点、記入のないものが 8 点あり、文政 11 (1828) 年から明治 4 (1871) 年に至る 43 年間に製作されたという。当時の極細の苧績みや生地模様のかまやかさで優れた技術を示す実在見本として、また奉納年月や願主名が留板の表裏に記されていることから史料としての価値が高く、国の重要有形民俗文化財に指定されている。



奉納越後上布幟観覧

細谷邸の脇にある十二神社八幡宮を参拝後、雪国舞茸で有名な「レストラン雪国」で昼食し、一路、村上市へ向かう。

午後 2 時半過ぎに、村上市郷土資料館、通称「おしゃぎり会館」に到着し、村上近世史研究会会長の大場喜代司氏の講演があった。同氏のご著書「村上藩」(現代書館発行シリーズ藩物語)から抜粋したプリントが配布されて、「村上藩の侍の衣食住」をテーマに、江戸時代の同藩の藩士らの日記から、門構や土間、玄関や客対間など住居に関すること、登城の際の衣服に関すること、上下の注文、時々料理の献立など、侍の暮らしぶりを詳細に語っていただいた。

この後、大場先生とともに、円形の展示場に入り、村上大祭で曳き回される「おしゃぎり」と呼ばれる山車や、先導役の荒馬、また傘鉾などを閲覧し、次いで隣接する重要文化財の若林家住宅を訪問した。大場先生の解説によると、若林氏は中級上位の家柄で、建物は曲家づくりの茅葺平屋建て、内部の部屋割りは細かく、典型的な中級武家住宅であるが、広大な庭園など格式の高さが伺え

る外観になっているという。最後に隣の民俗資料を集めた村上歴史資料館を見学して、一日を終了した。

8月5日(木)

朝食後、徒歩で常盤園(有)村上製茶を訪ね、日本茶インストラクターの矢部智弘氏より北限のお茶処、村上茶に関する講演をお聞きした。その歴史は古く、江戸時代元和年間(1615~1623)にさかのぼること。先人達の努力によって江戸後期、明治と隆盛を極めた非常に古い産地で、戦中、戦後に一時、衰退したが、栽培・製造・販売を一貫して手掛ける茶業者たちの熱意と努力によって、産地を死守してきた。平成13年に村上茶研究会を結成し、品種を植えて生産量を増やすことや在来種の品質を向上させ、希少なお茶として守っていくこと、そしてなによりもおいしいお茶を届けることを目標に活動を行っていることなどを、お話しいただいた。

熱気のコもった質疑応答の後、常盤園の茶畑を見学し、古い町屋の雰囲気味わいながら、割烹新多久で昼食した。食事の終わりに、国際常民文化研究機構 共同研究員の赤羽正春氏より村上の郷土食、鮭についてのお話があった。

鮭が暮らしを支える文化圏「鮭文化圏」というものがあり、日本はその南限に当たるといふ。同氏は最近ロシアのトルツコイ村を訪れたそうで、鮭の皮でできた衣服や靴などを売る店を撮影した写真を紹介し、そのとき手に入れたという鮭の皮や財布などの製品を見せてくれた。鮭の皮は堅いが、よく揉むと柔らかくなる。話には聞いていたが、実物を目にして、改めて驚かされた。

夏期セミナーはこれをもって終了し、この後、希望者は日本初の鮭の博物館、イヨボヤ会館などを訪問した。しかしこの日は今夏一番の猛暑日となり、散策するには暑過ぎたことが、心残りだった。

なお、今回は会員30名、学生1名が参加した。最後に、今期セミナー開催に、日本女子大学小笠原小枝先生に、多大なご協力をいただいたことを感謝申し上げます。

(夏期セミナー担当 柳原美紗子)

会計報告

会員の異動 (敬称略・五十音順)

①服飾文化学会 2009(平成21)年度収支決算書(2009年4月1日～2010年3月31日)

項目	予算	決算	予算との比較 (△減)	備考 単位:円
収入				
(1)年会費	1,275,000	1,425,000	150,000	H22 6,000×2 3,000×2 H21 6,000×188 3,000×18 H20 6,000×18 3,000×1 H19 6,000×11 H18 6,000×8 H21 1,000×9 500×7 H22 1,000×1 500×2 3,000×12
(2)入会費	19,000	14,500	△4,500	
(3)年間購読料	30,000	36,000	6,000	
(4)学会誌掲載料				
論文編掲載料	520,000	739,000	219,000	Vol.10, 703,000(掲載料) 3,000×12 (審査通信費)
作品編掲載料	300,000	279,000	△21,000	Vol.2, 258,000(掲載料) 3,000×7(審査通信費)
その他	0	14,710	14,710	学会誌バックナンバー販売 13,000 利子1,710
繰越金	1,642,306	1,642,306		
合 計	3,786,306	4,150,516	364,210	
支出				
(1)経費				
1)総会運営費	100,000	200,000	100,000	5月(新型インフルエンザのため中止)、9月(実施)
2)学会誌発行費				
論文編発行費	700,000	867,315	167,315	
作品編発行費	550,000	488,980	△61,020	
3)事務管理経費	120,000	120,000	0	
4)通信費	100,000	109,825	9,825	
5)会報発行費	120,000	118,570	△1,430	会報No.18, 19
6)事務用品費	60,000	24,024	△35,976	
7)会議費	50,000	27,823	△22,177	
8)交通費	10,000	3,750	△6,250	
9)雑費	10,000	9,200	△800	
(2)事業費				
1)事業費A	50,000	7,569	△42,431	研究例会
2)事業費B	100,000	99,751	△249	論文発表会
(3)広報費	20,000	0	△20,000	
(4)予備費	1,796,306	32,499	△1,763,807	選挙費用、生活科学系コンソーシアム21年度会費
(5)服飾文化基金		1,000,000	1,000,000	
小 計	3,786,306	3,109,306	677,000	
(6)次年度繰越金		1,041,210		
合 計	3,786,306	4,150,516		

②特別会計収支報告書 (2009年4月1日～2010年3月31日)

項目	収入	支出	残高 単位:円
前年度繰越金			1,249,552
○大会余剰金	0		
○夏期セミナー余剰金	184,595		
○名簿作成費		196,322	
○ホームページ作成費		120,576	1,117,249

③服飾文化学会 2010(平成22)年度収支予算書 (2010年4月1日～2011年3月31日)

項目	予算額	前年度	前年度との比較(△減)	備考 単位:円
収入				
(1)年会費	1,335,000	1,275,000	60,000	
(2)入会費	15,000	19,000	△4,000	
(3)年間購読料	36,000	30,000	6,000	
(4)学会誌				
論文編掲載料	640,000	520,000	120,000	
作品編掲載料	300,000	300,000	0	
その他	0	0	0	
繰越金	1,041,210	1,642,306	△601,096	
合 計	3,367,210	3,786,306		
支出				
(1)経費				
1)総会運営費	100,000	100,000	0	
2)学会誌発行費				
論文編発行費	850,000	700,000	150,000	
作品編発行費	550,000	550,000	0	
3)事務管理経費	120,000	120,000	0	
4)通信費	110,000	100,000	10,000	
5)会報発行費	120,000	120,000	0	
6)事務用品費	60,000	60,000	0	
7)会議費	80,000	50,000	30,000	
8)交通費	10,000	10,000	0	
9)雑費	10,000	10,000	0	
(2)事業費				
1)事業費A	50,000	50,000	0	研究例会
2)事業費B	100,000	100,000	0	論文発表会
(3)広報費	20,000	20,000	0	
小 計	2,180,000	1,990,000		
(4)予備費	1,187,210	1,796,306		
合 計	3,367,210	3,786,306		

★名誉会員

石井 とめ子

★入会者 (2010年4月～)

正会員

今村 由美子 神奈川県
大塚 有里 東京家政大学
後藤 純子 愛国学園短期大学
塩原 みゆき (株)エフシージー総合研究所
谷 祥子 日本女子大学
法月 紀江 滋賀県立大学等 非常勤講師
松山 直子 東京文化財研究所
山岸 裕美子 群馬医療福祉大学
山本 理香 ギャラリーチューリップ
芳野 まい 早稲田大学等 非常勤講師

学生会員

小形 道正 東京大学大学院
加茂 瑞穂 立命館大学大学院
権 裕美 お茶の水女子大学大学院
小島 咲 共立女子大学大学院
野尻 久美子 共立女子大学大学院
原口 碧 お茶の水女子大学大学院
山本 真弓 文化女子大学大学院

定期購読会員

名古屋女子大学学術情報センター

★退会者

格根 図亜 2009年度末
沢森 真弓 2009年度末
渡辺 波江 2009年度末
堀 ひろみ 2010年5月末

※会則第16条 (2) に従い、下記の方の会員資格を停止します

伊藤 真里、河野 桃子、正田 麻衣子、南 潤淑

*****お知らせ*****

増田美子編『花嫁はなぜ顔を隠すのか』悠書館

2010年5月発行 四六判360頁

会員の執筆者：内村理奈、河島一恵、黒川祐子、
諏訪原貴子 (敬称略)

会 報 No.20：2010(平成22)年9月30日発行

編集発行人：服 飾 文 化 学 会

事務局：101-8437 東京都千代田区一ツ橋2-2-1

共立女子大学 被服意匠研究室

TEL,FAX;03-3237-2496

E-mail;isho@kyoritsu-wu.ac.jp

URL;http://www.fukushoku-bunka-gakkai.jp